

教育研究業績書

所 属	職 名	氏 名	学 位
現代文化学部現代コミュニケーション学科	教授	宇野 文重	博士(法学)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
(1) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) ニュース記録ノートの作成と発表およびペア・グループワーク グループワークを通じた「熊本」の知識の探究とPR素材作成によるプレゼンテーションの実践。 人権ないし男女共同参画等にかかわる講演会等の案内および参加	2014~2020 2016~2017 2013年5月、2014年12月、2015年5月	<p>5学科すべての講義(「政治と社会」、「日本国憲法」「法学等」)の講義において、NIEを実践している。毎週または定期的にニュースを一つ記録用の用紙)に記入し、自己の見解を記入した上で、授業で発表させる。発表方法は、クラス全体から1名挙手で発表する場合、2~6名程度のグループで意見交換した上で、グループごとの発表を行う。ピアレビューも実施する。発表内容についてニュース内容および学生の意見にも解説・コメントを加える。</p> <p>「熊本」の歴史、文化、言語、地域社会、芸術などのテーマに沿った講義を聞いた上で、熊本の特色や魅力を発信する企画(CM作成、旅行プラン作成)をグループで作成し、発表する。相互に評価も行う。</p> <p>熊本県、熊本市女性リーダー協議会、大学コンソーシアム熊本等が主催する男女共同参画に関するフォーラムやワークショップへの参加を促し、学生とともに複数のイベントに参加している。平成25年5月18日には熊本市女性リーダー協議会主催「日本人権の母 B.ゴードン」に39名の学生が参加、同12月1日には熊本県・コンソ共催の熊本県男女共同参加フォーラムに3名参加。平成27年5月23日WAM主催「何を恐れる」上映会(世話人谷口絹枝氏)に5名参加。いずれも任意参加であるが、大学での講義を通じて得た知識をもとに、人権や社会問題、キャリアに対する自覚などを得る貴重な機会となっている。</p>	
(2) 作成した教科書・教材・参考書 平井一臣・土肥勲司編『つながる政治学』(法律文化社、2019年3月刊行)の執筆	2019年	現代文化学部「政治と社会」の教科書および生活科学部、短期大学部「日本国憲法」等の参考書となる文献を出版した。	

授業内容のレジュメ・スライドおよび事前事後学修用の教材(ニュース記録用ノート、予習キーワード表、まとめカード、毎回のコメントカード)の作成	2013～現在	授業内容を伝えるためのレジュメとスライドを作成し、事前事後学修用の教材(ニュース記録用ノート、予習用シート、まとめカード、毎回コメントカード等)を作成した。
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等 尚綱大学FD研修会「アクティブ・ラーニングを取り入れてみよう」模擬授業担当	2017年9月19日	学内FD研修にて、アクティブラーニングの模擬授業の講師を担当した。
(4)その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
宇野文重『家族のなかの世代間関係 第2章 明治民法下の世代間関係の理念と実相』	共著	2021年2月	日本経済評論社	小池誠ほか編	
宇野文重『つながる政治学 第2章 ジェンダーとどう向き合うのか』	共著	2019年3月	法律文化社	平井一臣・土肥勲司編著	
宇野文重『日本法制史概説 第12章近代民事法の展開』	共著	2018年3月	弘文堂	出口雄一, 神野潔, 十川陽一, 山本英貴編著	
宇野文重『家と共同性(家族研究の最前線 1) 明治民法「家」制度の構造と大正改正要綱の「世帯」概念』	共著	2017年3月	日本経済評論社	比較家族史学会監修・	
白水隆氏・宇野文重『憲法判例から見る日本 法×政治×歴史×文化 「第2章 社会や家族の変化に民法は応えるべきか 非嫡出子相続分最高裁違憲決定:』	分担執筆	2016年9月	日本評論社	山本龍彦, 清水唯一朗, 出口 雄一編著	

宇野文重『戦時体制と法学者 1931～1952 「中川善之助」』、『同「青山道夫」』	共著	2016年3月	国際書院	小野博司, 出口雄一, 松本尚子編著	
宇野文重『現代家族ペディア 「学説史・日本法制史」』	共著	2015年3月	弘文堂	比較家族史学会編	
宇野文重『法の流通 「明治前期における『自然後見』概念と『家』原理——母の法的地位をめぐる訴訟を中心に」』	共著	2009年3月	慈学者	鈴木秀光, 高谷知佳, 林真貴子, 屋敷二郎編著	
宇野文重『東アジア法研究の現状と将来——伝統的法文化と近代法の継受—— 第2章 日本近代家族法史を中心とした『法の継受と創造』に関する研究史』	共著	2009年3月	国際書院	水林彪編	
宇野文重『明治前期の法と裁判 「東京地裁 廃戸主判決における『家』と戸主権」』	共著	2003/3月	信山社	林家礼二, 石井紫郎, 青山善光編	
(論文)					
「書評 小沢奈々著 「穂積重遠の『親権』論 (法制史研究67号)」	単著	2020年3月	『法制史研究』68号	宇野 文重	
「明治前期における女性『雇人』訴訟に関する若干の分析」	単著	2018年3月	『尚綱大学紀要』51号	宇野 文重	
「明治前期『弟子年季奉公』の雇用契約をめぐる下級審判決の分析」	単著	2014年12月	『法政研究(植田信廣教授退官記念号)』81-4	宇野 文重	
明治11年代の小学校教員の雇用契約と『むら』——徳島始審裁判所「小學教員給料催促ノ訴訟」を素材に——	単著	2014年3月	『尚綱大学』47号	宇野 文重	

「明治民法起草委員の『家』と戸主権理解—富井と梅の『新族編』の議論から—」	単著	2007年12月	『法政研究』74-4	宇野 文重	
(その他)					
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動					
外部資金 日本学術振興会・2020年度～2023年度基盤研究(C)研究代表者	研究課題名「家長的権力の濫用と「家」概念の裁判史——親権・戸主権濫用判決の横断的研究を通して」				
外部資金 日本学術振興会・2017年度～2021年度基盤研究(C)研究代表者	研究課題名「世帯の家族法史」——21世紀日本の家族法判例と家族法学の史的展開」				
外部資金 日本学術振興会・2018年度～2023年度基盤研究(B)研究分担者	「近代日本の地域自治-村と大字の法史学的研究-」				
外部資金 日本学術振興会・2014～2016年度・若手研究(B)研究代表者	「近代日本における『雇用契約』および雇用法理論の法史学研究」				
外部資金 日本学術振興会・2004年度～2007年度・基盤研究(B)研究協力者	「近代日本地域自治の軌跡—村と「むら」の法史学的考察」				
外部資金 日本学術振興会 科学研究費補助金 2004年度～2006年度・特別研究員奨励費(PD)	日本学術振興会 科学研究費補助金 特別研究員奨励費(PD)				
外部資金 日本学術振興会 科学研究費補助金 2000年度～2002年度・特別研究員奨励費(DC2)	「わが国近代家族法における『家』原理の再考察—明治前期の下級裁判所判決を素材として」				
学会活動 比較家族史学会	2021年度秋季研究大会運営委員長				
比較家族史学会	平成29年度～31年度 理事・企画委員 令和2年度～令和4年度 理事・企画委員				
大学コンソーシアム熊本 男女共同参画連携推進委員会	平成29・30年度 副委員長 平成31(令和元)年度 委員長 令和2年度～現在 委員				
全国女性会館協議会「第14回事業企画大賞」・審査員	令和2年10月1日～11月25日				